

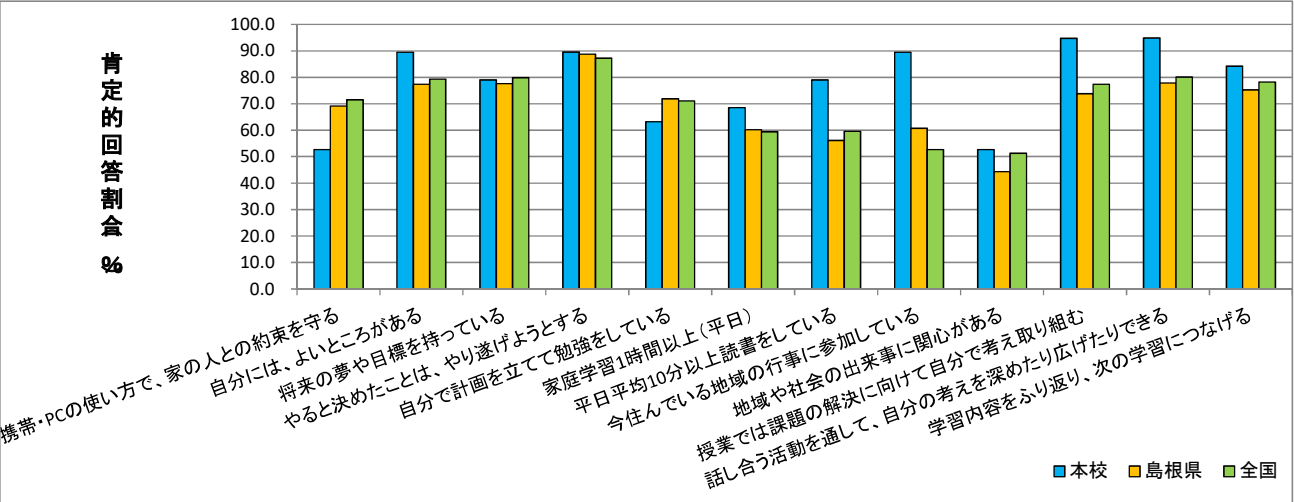
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○話し合い活動の流れの内容や主訴を読解する際に、話し手の気持ちを認めて受け止める表現方法は理解できていることから、実際の場面でも話し合い活動をする技能や態度が身に付いている。 ●文章記述の問題では、要旨をまとめて書く力に課題がある。	・文章記述への抵抗感を減らしたり、慣れたりするために、自分の考えや意見、振り返り等を書く機会を設けたり、条件付き作文の練習に取り組ませたりする。
算数	○学習は概ね定着しており、全16問中11問で、全国平均を上回る正答率になっている。 ●割合と比例の関係の理解が不十分である。	・割合の学習で、数直線や表を用いて比例していることが理解できるような学習活動を工夫するようにする。
理科	○無回答率が低いことから、問題に粘り強く取り組むことができおり、知識・技能が身に付いている。 ●【実験結果】から何が分かるのか、言えるのかといったことを考えること＝【考察・分析】が苦手である。より深く考える力に課題がある。	・予想→実験→結果→考察・分析というプロセスを大切にする。特に【考察・分析】段階では、児童が結果に疑問を抱いていくような流れになるように丁寧に扱う。そのために教師から「なぜ？どうして？」といった声掛けをしたり、考察・分析の時間確保をしたりする。そうした積み重ねを通じ、分析力をつけるようにする。

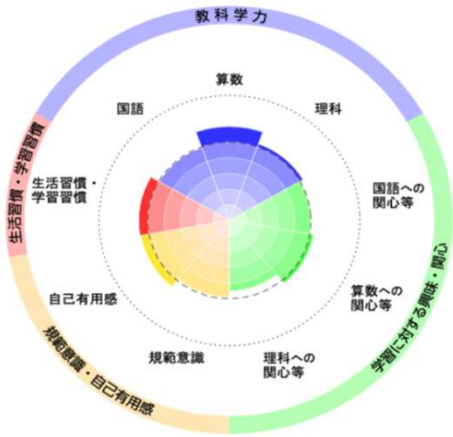
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○自己肯定感、学習意欲、共に高い。 ●家で自分で計画を立てて勉強する児童の割合が、県、全国と比べて低い。	・後期課程(中学校)へのつながりを意識し、教科ごとに自分で目標を立てて学習を進められるようにする。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・「自分の意見や考えを表現する力」の育成のために、各教科で、子どもの実態を踏まえ、目指す子どもの姿や何に力を入れて授業を行うのかを意識し、日々の授業作りや授業改善に努める。
・自分で計画を立てて学習したり、子ども自身が自分につけたい力を意識した学習を行ったりする力をつけるため、自学を充実させる指導や声かけを行う。

【受検者数】

19 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。